

瀬や淵のある区間とない区間では、 魚類の生息状況はどの程度異なるのでしょうか？

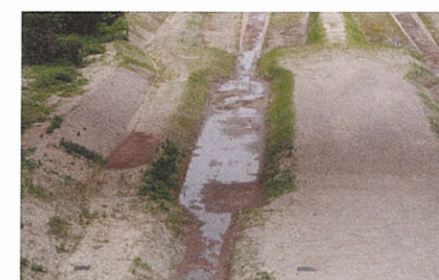


春から夏にかけて調査を行った結果、
瀬や淵がある区間では、
魚の数も種類も多いことがわかりました。

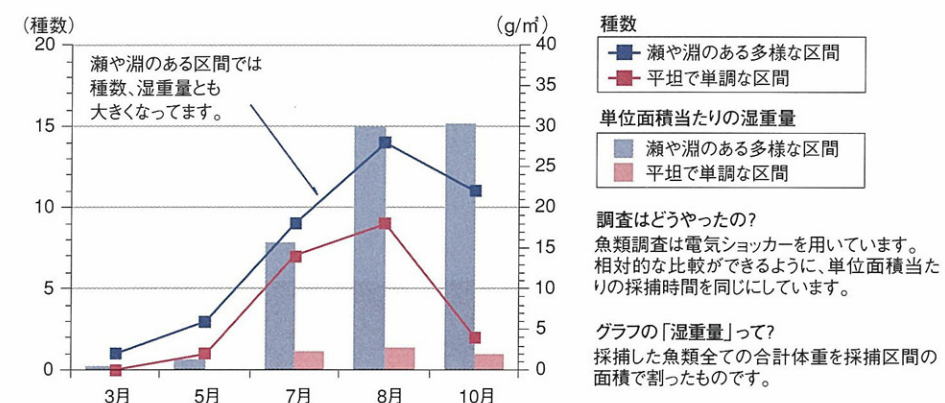
実験河川には、瀬や淵や河岸植物がある多様な区間と、河道を直線にし、川幅を広げた単調な区間があります。それぞれ、中小河川の昔の姿と、改修後の姿をモデルにしています。建設省では平成2年より、「多自然型川づくり」が始まりましたが、それ以前に改修され、そのまま放置されている河川も少なくありません。ここでは、2つの区間における魚類の生息状況を比較し、今後の復元のあり方について考えてみましょう。



A. 未改修区間をイメージ
(瀬や淵のあるハビタット研究ゾーン)



B. 従来型の改修区間をイメージ
(平坦で単調な自然河岸形成研究ゾーン)



■瀬と淵がある多様な区間と平坦で単調な区間における採捕種数、湿重量の違い

科名	種名	3月	5月	7月	8月	10月
コイ	オイカワ	66	23	20	1	25
	ウグイ				1	5
	タモロコ			14	1	34
	モツゴ				1	1
	カマツカ				3	1
	ツチフキ					1
	ゼゼラ					
	ニオイ				3	
	スゴモロコ類					1
	コイ			11	2	9
	フナ類			25	8	39
ドジョウ	ドジョウ					2
	シマドジョウ類		1	1	4	3
ナマズ	ナマズ		3	4	1	1
キュウリウオ	アユ			3	3	4
	オオクチバス			1	1	1
ハゼ	ヨシノボリ類			1	1	1
タイワンドジョウ	カムルチー		1		3	4
不明魚種		1	1			

■各月の採捕魚種

多様な区間では単調な区間と比べて、魚類の生息状況が大きく異なることが解ります。今後は、このような環境が悪化した河川の復元が必要となります。センターでは効果的な復元方法についても研究を行っています。

青文字が多様な区間、
赤文字が単調な区間です。

◀生息魚類の季節変化

多様な区間では、春～夏にかけて、優占種に変化が見られました。特に、フナ類やタモロコ類が多くなっています。また、この2種とナマズ、シマドジョウ等は実験河川で産卵が確認できました。